関西福祉大学 - 「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」 -

Information Wave No.22

第22号 2011年9月20日発行

関西福祉大学図書館

〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3 Tel.0791-46-2506 Fax.0791-46-2535

図書館の役割を思う

安 井 秀 作 学長



この標題からは、情報化 社会における図書館の在り 方を論ずるやに思われるか もしれないが、それを論ず るだけの才覚はない。

今や情報化社会である。 自分が欲しい情報はイン

ターネットから簡単に入手できるし、膨大な辞書・ 辞典なども活用できるので、基礎知識の確認も極め て容易であり、誠に便利という他はない。

ところで若い人たちがパソコンや携帯電話などの 機器を操作しているのをみると、その早さに驚く。 その極めて反射的な動作からすれば、脳が働いてい るとは思えない。そのような疑問をかねてから思っ ていたが、やはりそうであった。

ある脳生理学者によれば、パソコン・ゲーム・携 帯電話などを使用している間は、人間の人格形成、 感情のコントロール、相手を慮るこころの働きなど を司る「前頭葉前野」が、休んでいるということであっ た。これでは前頭葉前野が鍛えられない。その脳生 理学者によれば、前頭葉前野を鍛えるには昔ながら の「読み・書き・算盤」が「黙読」ではなく「音読」 が良いと言うが、今更漢詩などを素読した寺子屋の 時代に戻すわけにもいかない。

これらの機器は極めて大きなメリットを持つこと は否定しないが、結果として若い人たちの前頭葉前 野が従来のようには鍛えられていないとすれば問題 は深刻である。これから生ずる問題は想像に難くな 11

それはそれとして、インターネットかられ得られ

るデータは実に雑多であり、ヒントは得られるかも しれないが、残念ながらそれ以上のものではない。 その多くは一度完全に捨て去らなければ、新たな創 造へと歩を進めることはできない。

しかし新たな創造には大変な集中力と持続的な努 力を必要とする。そこに必要不可欠なのは静寂な空 間ではなかろうか。今は曲がりなりにも一家の主、 従って書斎が持てる。農家であったから家は広いと 言っても、今と違い三世代が住み、5人兄弟の末っ 子と言う立場では、書斎などの空間はなかなか得ら れなかった。

そのようなとき、我が家から数分の大学の図書館 は有り難かった。そこには自分の卒論テーマに関係 する多数の著作があり、手に取れるだけでなく、集 中できる静かな空間があった。静かさ故に集中でき、 脳も活発に働いてくれたように思える。

学生諸君の論文をみると、明らかにインターネト から取り入れたことが分かるものも多い。しかし、 それを捨て去りじっくりと考える、創造する、そう いう努力をして欲しいと思う。前頭葉前野をもっと もっと鍛えて欲しい。そのことは良い論文を書くと いうだけではなく、人格形成にも大いに役立つと言 うことを忘れないで欲しい。

今更と思うかもしれないが、脳は使えば使うほど 能力を発揮してくれる。鍛えることが大切なのだ。

情報化社会に対応した図書館とすることは当然で あり、そのような方向でシステムの改善に努めなけ ればならない。しかし、昔も今も変わることのない 静けさという空間を大切にして欲しいと願う。

新しい日本の歌 2

(古瀬徳雄作曲、マザーアース、2010年11月刊)

社会福祉学部 教授 瀬 雄

兵庫県の詩人、作曲家、演奏家との協働による創造的 な交流が組織化され、2007年に「ひょうご日本歌曲の 会」が誕生した。第2回の作品発表が、2009年11月11 日兵庫県立芸術文化センター小ホールで初演され、それ らが楽譜となった。

作曲したのは「あめふり」「秋のカルタ」「ねぎぼうず のうた」の3詩である。井上修子作詩の「あめふり」は、 濃い灰色に閉ざされた大気に、色彩豊かなパラソルを広 げ、子どもの夢と希望を描き、「秋のカルタ」は、言葉 遊びで終わらない創造のリズムにあふれ、こおろぎの子 守唄で閉じられる。この詩は旋律を誘発し、鍵盤の上に リアルタイムで作曲を進めることができた。

「ねぎぼうずのうた」の作詩者玉川侑香は、阪神淡路 大震災で被災し、逆境を力強く生きる人々を追い続けた 詩を多く発表している。「ねぎぼうずのうた」は、冷蔵 庫の片隅で押しつぶされ、選ばれる野菜から取り残され た食材の悲哀と、そこでも「ねぎぼうず」が花を咲かせ る矜持の叫びを描いている。作曲にあたっては、詩の危 うさと均衡、乱れと調和の比重の中で、生成過程を味わ いながら、組み立て追い求めた。時に音たちの進行の脈 絡を見失い、段落と段落が対立、重層し、辿れなくなる と、音楽の外側を流れ、眺めてしまうことも起こる。

この詩の出発点に立ち、ま ず序奏と2部形式の大づかみ で枠を捉え、そして「…しめ しめじめじめ… | の語は、同

的に決めた。さらに音の軌道の中で詩を追体験し再構 成できることを考えながら、対峙しては五線紙を埋めて いった。冷蔵庫の窮屈な空間をハ短調で「ねぎぼうず」 に語らせ、勝利の宣言である「精一杯咲いて見せる」は、 平行調の変ホ長調で「ねぎぼうず」に栄光の階段を登ら せ終止線を引いた。

この曲は1月、阪神大震災で甚大な被害のあった神戸 市長田区で、初演したテノール皆木信治により再演され た。作品はあくまで自己完結的ではなく、作り手から離 れても、既存の作品に変革がおこる。それは、歌うもの とそこで聴く者との対話によって、常に変貌して行く世 界に存在しているからである。ここでは、当時を思い起 こし、人々に元気さ、力強さを与えてくれたと評価を得 たが、これからも歌い継がれ、未曾有の震災により被災 された方々をも、勇気づけてくれる曲であることを願っ ている。



社会福祉分析論

理論と制度を基盤として(第3版)

(井村圭壯·相澤譲治編著、学文社、2011年1月刊)

社会福祉学部長 社会福祉学部 教授 平 松 正/臣

本書は現代の我が国の福祉ニーズが、社会・経済・文 化的状況の変化とともに多様化・高度化してきている現 状を踏まえ、現代社会における社会福祉のあるべき方向 を考察すると共に、近い将来ソーシャルワーカーとして 活躍することを目指している学生や現場で実践中の福祉 従事者の基本書として企画され執筆されたものである。

社会福祉の研究は、社会及び経済的な変動にともなう 生活様式の変化や福祉的課題の質・量の増大と深化への 対応に終始するだけではなく、人々の日々の暮らしに直 面する切実な問題意識の共有を基盤として、具体的な解 決方法を見出すことが求められている。

本書では、ソーシャルワーカーに求められる、社会福 祉の歴史や法律・行政組織など福祉制度の基礎知識か ら、公的扶助・児童・高齢者・障害のある人等、社会福 祉の各分野に至る概論が簡潔にまとめられている。ま た、標準的・一般的な構成にとどまることなく、カウン セリングや福祉教育、福祉文化についても遍く論じ、総 合的・多面的に理解することが可能となるように配慮が なされている。

私の執筆したのは「福祉教育」についてである。福祉 教育とは、人々の幸せを実現することを目的とする "福

と、人々が生きていく力 を育む"教育"の領域が密接 に連携し協働しながら創造す る新たな領域である。長い歴 史の中で築いてきた両者の有

する固有の専門性を尊重しながらも、互いに影響を与え つつ、常に建設的な批判を重ね内容を豊かにしあう関係 にある。また、共に「幸せ」という目的を志向する実践 の科学でもある。福祉教育を通して、あらゆる人びとが 「地域の生活者として共に生きていく力を身につけてい くこと」が求められている。

今後、福祉を推進していく中で、福祉教育のもつ意味 はますます重要なものとなる。

福祉教育は結果を学ぶことではなく『学び方を学ぶ (learning how to learn)』ことにその目的をもつ。学ぶと いうことは、その領域で用いられている基礎的な言葉や 概念を理解することが出発点である。

本書が社会福祉や看護、保育などを学ぶ学生のための テキストや参考書として、また、われわれ教員が福祉教 育を総合的・体系的に展開するための指針として役立つ ならば幸いである。



新しい日本の歌2

ひょうご日本歌曲の会

地域福祉分析論―理論と実践を基盤として(第2版)

(井村圭壯·谷川和昭編、学文社、2011年1月刊)

社会福祉学部 准教授 谷 川 和 昭

地域で普通に暮らせる幸せ/しくみの実現を願い、 本書の初版が発刊されてから早いもので6年が経つ。

【科目「地域福祉論」の新たな位置づけ】

2007年11月に「社会福祉士及び介護福祉士法」が約 20年ぶりに改正された。そして、2009年4月からは両福 祉士の教育カリキュラムも新しく再スタートを切った。 従来の「地域福祉論」は、本学のように読み替えでそ のまま地域福祉論としている大学も多いが、「地域福祉 の理論と方法しに改称し国家試験においても重要度の 高い科目となった。つまり、科目数は13科目から19科 目に増えたが、「地域福祉の理論と方法|(地域福祉論) の問題数は旧資格制度と同じく10題据え置きとなった。 また、従来30時間であった授業が現行60時間と倍増し (本学の場合は開学開講当初より60時間)、科目として の位置づけも「選択」から「必修」へと格上げされて いる(本学でも2011年度より必修化)。

【カリキュラム強化と福祉をとりまく諸条件】

このように教育カリキュラムを含む資格制度そのも のは明日の福祉のため、地域福祉論をはじめ充実強化 されてきていると言ってよい。しかしながら、これは 一見して好ましいことであるかのようにみえるが、決 してそうとは言い切れない。むしろ当該科目の時間数 を増やし、必ず受講しなければならないほどに、日本

の福祉をとりまく経済、社会、 文化といった諸条件が思わし くない方向に進んできた証左 ではないのか。それは穿った 見方であろうか。

【理論と実践に視軸を置いたテキスト】

いずれにせよ、本書は以上のことからも分かるよう に「地域福祉論」あるいは「地域福祉の理論と方法」 のテキストとして編集されている。しかし、単なるテ キストとしてではなく、学会等で公表された共有すべ き知見も可能な範囲で盛り込まれている。そして今日、 社会福祉の再編が「地域福祉」という視点から本格的 になされようとしていることを踏まえ、理論と実践の 両方に働きかけられるよう意図したものとなっている。

人は1人では生きられない、とよく言われる。地域に 支えられているという、この事実が地域福祉のこれか らの可能性とスタイルを創り出すように感じられる。 では、大切なことは何なのか。その手がかりを見つけ たいと思う方々には、ぜひ本書を手に取り、学んでみ てほしい。地域福祉へと帰結するためにどうしたらよ

剛

いか、一緒に考えたいものである。

【地域福祉への帰結の手がかり】

底辺にむかう志に学ぶ一"社会問題と連帯"の今

(中村剛著、あいり出版、2010年11月刊)

社会福祉学部 准教授 中 村

て考えることもほとんどな い。第Ⅰ部で紹介している事 例をきっかけに、「視るべき もの」を視たうえで社会福祉 を学んでほしい。第Ⅱ部では、

底辺を社会問題として捉えることを可能にする小倉 先生の眼差しと思考、そして哲学と理論の一部をま とめている。そこにあるのは抽象的な社会福祉では ない。自分ではどうすることもできない歴史・状況 の中で解決の糸口が見つからない人びと、老いや貧 困のなかで人間らしい普通の暮らしを諦める無念さ など、一人ひとりの身に起こっていることを基軸に

いて考えたことを3つの論文にまとめている。 社会福祉の制度や実践の根幹には「これが社会福 祉である」という社会福祉の本質がなければならな い。しかし、この本質を見抜きそれを言葉で表現で きる人はほんのわずかしかいない。小倉先生はその 数少ない一人である。本書が小倉先生と読者との出 会いとなることを願っている。

した社会福祉がある。そして第Ⅲ部では、小倉先生

の思考と哲学に触発され、「連帯」というテーマにつ

最後のセーフティネットといわれる公的扶助(生 活保護)の網の目から落ちてしまう人たちがいる。 そこでの暮らしは単に貧しいというだけでなく、ホー ムレス、虐待、犯罪、餓え、自死、困窮といった様 相を帯びる。現代における「底辺」である。いつの 時代・社会にも底辺は存在している。人は上(目標、 出世など)ばかりを見て、できれば上に行こうとす る。しかし同志社を創設した新島襄やその志を継ぐ ものは、底辺(下)を視るだけでなく底辺へとむかい、 その状況を改善しようとしてきた。底辺にむかう志 である。この同志社大学の根幹を流れる志を継承し、 それを社会福祉の本質と捉え、そこを軸にして研究・ 教育をされてきたのが同志社大学名誉教授である小 倉襄二先生である。本書は小倉先生に触発され学ん だことの一端をまとめたものである。

小著ではあるが3部構成となっている。第1部は、 自己責任として見放すのではなく、社会の問題とし て考えなければならない今日の社会問題(底辺)の 一部を描き紹介している。小倉先生は「視るべきも のを視よ」という。私たちは視るべきものをほとん ど視ていない。だから、その状況を社会の問題とし



地域福祉分析論

なぜからはじめる保育原理

(池田隆英·上田敏丈·楠本恭之·中原朋生編著、建帛社、2011年4月刊)

社会福祉学部 講師 井 上 寿

「保育原理」というのは、保育士資格を取得するた めの必修科目である。しかし、絵本の読み聞かせ、 エプロンシアター等の保育内容の実践的な学びと比 べれば、学生にとってその授業内容は、実習や保育 現場で役立つものであると自覚するのは難しいよう だ。それゆえ「保育原理」は、時として睡魔と闘わな ければならない授業科目となってしまいがちである。

本書は、このような学生の意識に対して、「学び の内容は、学び始めのときに十分に評価できるもの ではありません。時間の経過、人生の深みとともに、 自分自身が変わることで、改めて『意味があること』 だということに気づかされるものなのです」と呼び かけている。このような学びを求めて本書は、「保育 についてはこう考えるべきだ」という「べき論」で はなく、「根拠をもった論述」が強く意識されている。

自分自身が変わることにより、学ぶ対象が新たな 姿で立ち現れることを期待して、本書ではすべての 章に「なぜ~」という副題がつけられている。たと えば、筆者が執筆した「4章 保育所保育指針の考え 方」では、「なぜ保育所では教科書を用いないのか?」 と問いかけている。具体的事例の検討を通じて、保 育内容は「子ども(達)の『いま・ここ』の状況を 引き受け、それぞれの個人差に配慮し、主体性を尊

ばならない」という保育の 特質を理解することにより、 それが教科書を必要としな

重して組み立てられなけれ いものであるとわかるような 記述を試みた。

また[10章 保育の思想史」(執筆:光田尚美先生) では、「なぜフレーベルは幼稚園を作ったのか?」と問 いかけている。このような問いを抱きながら、ルソー、 コメニウス、ペスタロッチなどの先人の思想をたど ると、歴史や思想を学ぶことは、誰が何をしたのか の確認作業ではなく、「思想や歴史との対話を通して、 自らの保育観、子ども観を確かなもの」としていくこ とであると理解できるように記述されている。

「あとがきにかえて」では保育者の日々の仕事が紹 介されている。保育者の日々の仕事には正解がない ので、同僚との意見の食い違い等で悩むかもしれな い。そのようなときに本書を読み返せば、「遠回りに 思えても、きっと、『子どもの最善の利益』という原 点に戻り、お互いの接点を模索する素材が見つかる だろう」と結ばれている。本書は、保育士資格を取 得し、就職したあとも使い続けることができるテキ ストであると言えるのかもしれない。

新しい教育原理

(広岡義之編著、ミネルヴァ書房、2011年3月刊)

社会福祉学部 講師 光 田 尚 美

本書は、主として大学生を対象とした「教育学」 の入門的概論として編まれたものである。本学でも 科目「教育原理」のテキストとして使用している。

本書の編者である広岡義之先生は、精神科学的教 育学の流れをくむボルノー(O.F.Bollnow)に師事さ れていた。本書の要所には、先生ご自身の撮影によ る、ヨーロッパ各地の学び舎や名所の写真と解説が 掲載されている。それを眺めてみるだけでも、ヨー ロッパの息吹を感じられて楽しい。加えて、随所に 教育学的考察を深める哲学的問いが散りばめられて いる点にも注目してほしい。

例えば、「教育は、子どもの自主的自由をどこまで も育成する過程であるが、子どもは、自由意志のゆ えに誤りを犯すことがある」との記述がある。さら に「学生は堕落する自由」があると言い切ったヤス パース(K.Jaspers)が援用され、「人格の自由を否定 してまで、堕落を阻止するべきではない」との言が 紹介されている。子ども(学生)の自主や独立、自 由を第一のものとするならば、教育者は常に誤りの 危険性と向き合い、その教育は容易なものではなく 「挫折」を含むことさえあると論じられている。

また別の項では、ボルノーの実存主義的教育学に 拠りながら、「教育を妨げ、中断させ、挫折に導くも

の」が、実は「教育の本質に 触れる現象」であることが指 摘されている。そこでは、一 般に教育が子どもの「連続」 の成長というイメージで捉え られていることに対して、「非



たぜからはじめる

保育原理

連続」の要素に注目することの意義が論じられてい

このような記述は必然的に、読者に「考える」こと を強いる。そうして読者は「教育」という営為の奥深 さを味わうことができるとともに、教育を仕事とす ることの<重み>を感じ取ることができるのである。

本書において私が執筆を担当したのは、第5章「家 庭・地域教育」である。入門書であることを意識して、 基礎的な理論の紹介にとどめているが、改めて家庭 教育、地域教育(社会教育)の機能を整理してみると、 それらがいかに人間形成の根幹にかかわるものであ るのかということを考えさせられよう。その機能が 今、十全に働かなくなっている。前章までに「教育」 の奥深さや<重み>をしっかりと受け止められたな らば、読者は本章の記述からある種の<危機感>を 抱くだろう。となれば、ぜひ何ができるか、何をす べきかを自ら調べ、考え、行動してほしい。

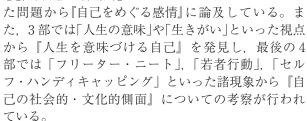
自己心理学の最先端 自己の構造と機能を科学する

(榎本博明編著、あいり出版、2011年2月刊)

社会福祉学部 講師 大和田 智 文

私たちは日々の暮らしの中で、自己(すなわち自 分自身) を中心とした世界を常に体験しているはず である。一方で、私たちはこの自己を中心とした世 界をことさら意識せずとも大きな支障なく生活でき てしまう、というのも現実としてありうる。つまり、 自分にもっとも近くもあり、同時にもっとも見えに くくもある……「自己」という概念は、このように 極めてパラドキシカルなものといえなくはないだろ うか。そのような事情もあってか、これまでの心理 学研究では自己を客観的に捉えるのは難しいものと 考え、そこに踏み込むことを躊躇しているように見 えなくもなかった。しかし、何とかしてその一歩を 踏み出すことはできないものか、それができればこ れまでよく分からなかった自分自身についての謎や, どうしてもうまくいかない対人関係の不可思議に一 筋の光明を見出すことができるかもしれない. そう した期待感が水面下で燻っていたのも事実であった。 日々体験している自己という心理現象にどうにかし て迫りたい、そんな思いに応えて登場したのが自己 心理学である。

本書は、極めてパラドキシカルなこの「自己」の 構造と機能に、極めて多様な角度から果敢に切り込 もうとしている。たとえば、1部では「自己物語」や 「時間的展望」、「自伝的記憶」などをもとに『自己のアイデンティティ』が論じられ、2部では「ナルシシズム」や「罪悪感」、「自己の居場所」といっ



全部で28の章より構成される本書の各章では、それぞれのテーマごとに自己心理学の最先端の研究知見が盛り込まれている。案内役を務める執筆陣もまた、わが国の第一線で精力的な研究を展開している30名の心理学者たちである。この充実ぶりと多彩ぶりは、おそらく類書に例を見ないだろう。今まさに、自己とは何かという遠大なテーマに取り組もうとしている学生、研究者はもとより、人間という存在をより深く知りたいと願う多くの人にとって、本書はまたとない好著となろう。

比較文化の饗宴

(丸橋良雄編、英光社、2011年5月刊)

社会福祉学部 助教 平 田 美千子

本書は、「比較文化」を共通のテーマとしたエッセイや学術論文をまとめた共著である。執筆者の専門分野は多岐に渡り、それだけに非常にバラエティに富んだ内容となっている。書き物の種類は大きく二つに分けられ、第一部は様々な文化活動の専門家による自由形式のエッセイ集、第二部はおもに演劇や文学の研究者による学術論文で構成されている。

拙稿「"Extracts from Adam's Diary" における逆転のユーモア―ナンセンスジョークにこめられたアイロニー―」(平田著) は、第二部に掲載されている。

マーク・トウェインの短編 "Extracts from Adam's Diary" では、駄洒落を飛ばしたアダムが世界に死をもたらした張本人だと糾弾される。アダムの「滝が上へ向かって流れたらさぞ素敵だろう!」というジョークは、逆転の発想の面白さを表しているが、実は作品に織り込まれた逆転の設定や現象の伏線となっている。この短編では、二極にある対の事物や概念の逆転が物語の進行とともに折り重なるように展開している。アダムの冗談を契機に世界の在りようが逆転し、アダムの物の捉え方も一転する。楽園

追放前後に生じた世界の変化に対するトウェイン版アダムとイブの価値観は聖書のそれと相反している。男性と女性という性の二極を代表するこ



のカップルは、場合によっては伝統的な性の特徴と 異なる性質を示している。カインの誕生にまつわる 二人の立場の違いは、男女の性差の真実を暴き出す だけでなく、現実に反し性的要素を取り払った逆ム の物語設定の意外な影響を反映している。アダムと イブが積極的に応用する近代科学的姿勢も二人との 対話が無いことも、十九世紀末のアメリカにお いて偏った価値観と結び付けられて社会に対けっなる 轢を生みだしていたキリスト教のあり方に対ける 業なアイロニーとなっている。本稿は、作品内によ られる逆転の設定や現象を、物語構造における逆転、 男性と女性の特徴と性の有無の逆転、科学による の不在の暴露という三つの側面から考察し、多重に 展開する逆転の流動性がいかに作品のユーモアを生 み出しているのかを議論するものである。



ひとりじゃない 子どもたちとのよりよい関わりを考える

(社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立清水が丘学園企画・制作、2011年3月刊)

社会福祉学部 准教授 八 木 修 司

児童養護施設や情緒障害児短期治療施設において、 虐待を受けた子どもたちが数多く入所するようにな りました

児童福祉施設では、これまでの家庭生活のなかでのこころや身体の傷つきを癒しながら、子ども一人ひとりの課題をしっかり理解して日常的な支援していくことが大切となります。しかし、実際の施設生活の中で適切な支援を絶えず提供することは決して容易ではありません。子どもたちの言動や行動に葛藤し、時には職員が疲弊してしまうこともあります。

こうした現状を踏まえて、私や清水が丘学園(情緒障害児短期治療施設)を中心に兵庫県児童養護施設連絡協議会が全面協力して、子ども支援のあり方を検討しました。特に若手の職員の方々が迷ったり、困ったりするポイントをアンケート調査から整理して、具体的な支援の手だてを考えました。相談した結果、職員への伝わりやすさをコンセプトに、ドラ

マ仕立てのエピソードを作り、よりよい支援を理解し実践してもらうための DVD 制作を決めました。内容の中心である4つのエピソードのシ



ナリオやその解説については、私や児童福祉施設の 現場に勤務する多くの関係者が何度も練り直し、実 際の演技は劇団の女優さんや子役さんにお願いしま した(本学の学生も一部出演)。

タイトルは、子どもたちも職員も孤立しないようにと願って『ひとりじゃない-子どもたちとのよりよい関わりを考える』に決めました。併せて、DVDの内容や制作に至る解説本もつけました。

児童福祉施設の研修や大学等での授業のツールとして役立てていただけることを願っております。また、この DVD や解説本に関しての忌憚ないご意見をいただければ幸いです。

図書購入リクエストについて

利用したい図書が本学図書館にない場合、購入リクエストをすることができます。

I.リクエスト可能な図書

- (1) 本学図書館に所蔵する価値があると思われる資料
- (2) 勉学のために必要と認められる資料
- (3) 学生生活に役立つ資料(教養書、小説など)

Ⅱ . 手続き

図書館に置いてある「図書購入リクエスト申込」用紙にご記入の上、カウンターに提出してください。 リクエストは本学学生に限り、1年に5冊までとします。 絶版、品切れのものについては購入できませんので、ご了承ください。

Ⅲ. これまでにあった主なリクエスト本

書名	著者	出版社	出版年月	請求記号
21世紀の健康づくり10の提言 - 社会環境と健康問題	マイケル マーモット リチャード・G. ウィルキンソン	日本医療企画	2002年10月	498.1/Mar
子どもの育ちを支える絵本	脇 明子	岩波書店	2011年5月	019.53/Wak
子どもは体育会系で育てよう! -バディ式「生きる力」の伸ばし方	鈴木 威	阪急コミュニケーションズ	2010年12月	376.1/Suz
呼吸器疾患ビジュアルブック	落合 慈之(監修) 石原 照夫(編集)	学研メディカル秀潤社	2011年 4 月	493.3/Ish
子育てと食事 -5つの定点 と3つの器がポイント	安藤 節子	芽ばえ社	1995年12月	599.3/And
空に向かって	安藤 美姫	扶桑社	2010年2月	784.65/And
KAGEROU	齋藤 智裕	ポプラ社	2010年12月	913.6/Sai



看護学部 教授 湯 舟 貞 子

書名	著者名	出版社	コメント	
看護婦 宮崎 和加子	加藤 千代	理論社	看護の歴史書をひも解くと、2人の活躍が心に残る。一人は訪問看護の先駆として人間に優しい社会づくりを目指す宮崎和加子の半生を辿る生き方の伝記であり、一方日本国際ボランティアセンターを	
国際ボランティア 星野昌子	杉山 由美子	在哪年	作り国際的に知られる NGO にした星野昌子の半生を画いた作何か新しい発見をし、行動に移したい私にとってワクワクした。で読んだ書物である。	
同性愛の歴史	ロバート・ オールドリッチ 田中英史・ 田口孝夫 訳	東洋書林	ヒューマンセクシュアリティ論を担当し、学生と共に考えていく中で出てきた「母性愛」について学びを深めるきっかけになった書である。本書は全世界を視野に入れ、文化・習俗・宗教を語る上で不可分な同性愛の歴史を、中立的立場で詳述した内容である。	
死者のゆくえ	佐藤 弘夫	岩田書院	縄文時代から現代まで、日本人が死者をどのように捉えていたのかを著した書物。私は数年前、ネパール国で死者を弔うために薪で焼いた死体を、ガンジス川に流している風景を目にした。傍で女性たちが沐浴をしている姿を驚愕の眼で見ていたが、それは余りにも日本の葬儀文化とは異なるものであった。日本文化の中での死者に対する考え方が詳しく記されている。	
中国の神話伝説 (上・下)	袁 珂鈴木 博 訳	青土社	上巻には道教や仏教により改竄された神話を復元し、ときにコミカルな語り口で描く、気宇壮大な物語。 下巻では散逸した文献断片の考証をもとに、中国古来の伝承を軽妙かつ華麗に描き出されている博捜の物語集成。中国を知る上に役立つ書物である。	

社会福祉学部 准教授 川 田 素 子

書名	著者名	出版社	コメント
カムイ伝講義	田中優子	小学館	時代は江戸初期、白戸三平作「カムイ伝」を大学での参考書に用い、 階級・格差が偏在した江戸時代の生活を「江戸学」の視点で切り込む。 今の日本社会の重層が解る。
大地の心理学 -EARTH BASED PSYCHOLOGY -	アーノルド・ミンデル 富士見幸雄 監訳	コスモス・ライブラリー	著者は物理学者でユング派分析家であるプロセスワーク(プロセス指向心理学)の創始者。心ある道を生きるアウェアネス(自覚)のための理論やメタスキル、エクササイズ満載。

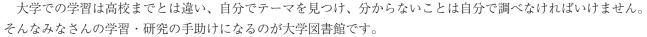
社会福祉学部 講師 大和田 智 文

書名	著者名	出版社	コメント
不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門	菊池聡・谷口高 士・宮元博章 (編)	北大路書房	世の中は不思議な現象に満ちている。心霊現象やUFO目撃談、占い、 洗脳などなど。これらは本当に起こりうることなのだろうか?だとすれ ばどうして?そのような謎を、心理学の立場から科学的に解明する。
「心理テスト」はウソでした。	村上 宣寛	日経 BP 社	巷にあふれるいわゆる「心理テスト」なるものを信じていませんか?本書では、血液型性格占いから定評のある性格検査まで、そこに潜むウソを一刀両断!科学的裏付けのある心理テストを作る大変さも分かります。
属人思考の心理学 組織風土改 善の社会技術	岡本浩一・ 鎌田晶子	新曜社	郷に入れば郷に従えとよく言うが、これは両刃の剣であることを忘れてはならない。さまざまな組織的不祥事は、この組織という「郷」に入ることによって生じる属人思考の強さが原因という。将来の社会人必読の良書。
アイデンティティとライフサイクル	エリク・H・エ リクソン (著) 西平直・中島由 恵 (訳)	誠信書房	エリク・H・エリクソンの古典的名著 "Identity and Life Cycle" が 新訳となって再登場。これまで「アイデンティティって何?」と探 しても結局分からなかったこの謎が,これで解明されました。人間 理解を深める好著です。

看護学部 講師 堀 理 江

	+++ / /2	니베트취	7.75.1
書名	著者名	出版社	コメント
妻を帽子とまちがえた男	オリバー・サックス	晶文社	作者であるサックス医師は、「レナードの朝」の原作となる「めざめ」の 著者としても有名です。生活者としての患者や家族を丁寧に見つめ、ほ んのささいなことも見逃さない観察力と「待つ力」に驚かされる一冊です。
夜と霧 新版	ヴィクトール・ E・フランクル	みすず書房	本書は第二次世界大戦中に、強制収容所に送られた精神医学者の体験記です。愛する者を失い、自己の命も喪失するかもしれない状況下で、人々の生きる力を支え続けたものは『希望』でした。
看護の原理 -ケアすることの本質と魅力-	菱沼典子、井上 智子、武田利明 編集	ライフサポート社	看護の原理といっても過言でないこと…「そばにいる」、「話を聴く」、 「日々の生活を支える」… それらのことが具体的な場面の中で描かれ ています。ささいなことが大切な看護なんだ と実感できる一冊です。
「病いの経験」を聞き取る -ハンセン病者のライフヒストリー-	蘭 由岐子	皓星社	ライフヒストリーインタビューの具体的な方法はもちろん、当事者 が過去を語ることの困難さ、語りと社会的背景とのつながりなど、 多くのことを学べる書籍です。

図書館ガイダンスについて



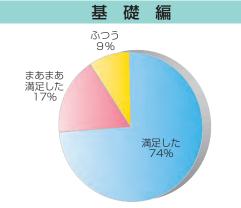
図書館を有効的に利用していただくために、図書館では基礎編と応用編に分け、ガイダンスを行っています。 基礎編では、図書を効率よく利用するためにオンライン目録を使った検索方法、リクエストの活用、My CARIN の有効活用などについてガイダンスを行います。応用編では、レポートや卒業論文に必要な資料、論文等を効率 的に入手するための方法についてガイダンスを行います。どちらも実際にパソコンを操作しながら実施します。 個別の参加、ゼミ単位での参加も可能です。

2011年度 前期参加実績 【参加者数】

基礎編						
	学年計	(昨年度)	社福	看護		
1年	51名	(0名)	(15)	(36)		
2年	0名	(0名)				
3年	1名	(1名)		(1)		
4年	1名	(6名)	(1)			
院生	1名	(0名)	(1)			
計	54名	(7名)	(17)	(37)		

応用編						
	学年計	(昨年度)	社福	看護		
1年	9名	(0名)	(9)			
2年	0名	(0名)				
3年	50名	(22名)	(3)	(47)		
4年	46名	(8名)	(37)	(9)		
院生	3名	(0名)	(3)			
計	108名	(30名)	(52)	(56)		

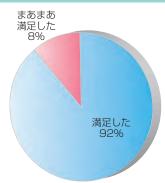
【満足度】





- ・本の探し方を前より詳しく知ることが出来たから。
- ・図書館や OPAC、MyCARIN の使い方がよく分かった。
- ・説明を聞くだけでなく、実際にやってみてとても分かりやすかった。
- ・これからはどのように図書館を利用すればよいか分かったか ら。
- ・図書館の使い方が理解できたので、もっと利用したいと思った。

応 用 編



- ・論文の入手方法をまったく知らなかったのでガイダンスに参加して良かった。
- ・論文検索の幅が広がり、これからの文献収集に役立ちそう。
- ・今までしていた検索以外の方法が分かったので、受講して良かった。
- ・現在、論文検索でとても苦労していて、今回の内容はとても 活用できるので良かった。
- ・分かりやすい説明で、プリントなども見やすく理解しやすかった。
- ・今まで知らなかった検索法を知れて、レポートに用いる文献 の幅が広がった。

後期も随時受け付けておりますので、まだ参加していない学生さんは、是非参加してみてください。

編集後記

長かった夏休みも終わり、後期が始まろうとしています。今年の夏休みは例年に比べ、図書館を利用される方が多かったように思います。頑張っている学生さんを見ていると、こちらも頑張らなければという気持ちになります!!

図書館だよりNo22では、先生方の著作本や推薦図書を掲載しています。みなさんの学習の手助けになる本や、ちょっと休憩したいときにピッタリな本が紹介されていると思いますので、是非読んでみてください。

また図書館を利用する上で分からないことや質問があれば、いつでもスタッフにお尋ねください。少しでもみなさんのお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いします!! $(M\cdot N)$